【基本情報】

教　　科	芸術	学　年	３年	教科書	Tutti　音楽Ⅱ　改訂版（教育出版）
科　　目	音楽Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	２ (64)	副教材	MUSIC　NAVIGATION
科 目 概 要	・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱)、器楽演奏（アルトリコーダー・和楽器)、鑑賞（作曲家の生涯と作品)、楽典（楽譜　の基礎知識・楽曲の構成） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。				
到 達 目 標	・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）が出来る。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。				
授業の進め方	・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・鑑賞教材は、オペラ DVD を使用し、ストーリーを探求する。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・和楽器では、三味線を実施します。（音楽室にあるものを使用します。） ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。 ・音楽史では、ギリシャ時代から現代までの流れを学習します。				
留 意 事 項	・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取組み、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。				
家 庭 学 習	・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（２０分位）				
備　　考	・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、持っていない人は準備しておいてください。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取組み、 得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
Ｂ．思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、 基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
Ｃ．資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
Ｄ．知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。
Ｅ．		%	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
楽典 （基礎本的音楽知識）	１０	音楽を形成している様々な要素について学習し､楽譜や音符に関して理解し、表現（歌唱・演奏）できるよう取り組む。 □音符 □音楽用語 など □小テスト		○		○		授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。 表現（歌唱・演奏）するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。
表現（独唱）	１５	基本的な発声（腹式呼吸・ベルカント唱法） を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら､また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、より難しい楽曲にチャレンジします。 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 など □実技テスト			○		○	曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、 イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
表現（合唱）	１５	発声練習･パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。（個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように） □2重唱 □合唱 など	○		○			パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 １年間の集大成として、合唱発表会を実施し、成果の発表をする。
器楽(アルトリコーダー)	１５	リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、豊かな表現を工夫しながら演奏する。 □音階（アルペジオ） □練習曲（様々な調での演奏） □楽曲 など □実技テスト			○		○	様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
鑑賞 （作曲家と歌劇の成り立ち）	９	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。 □オペラ □確認テスト				○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と時代背景、表現法について考察する。 □確認テスト